

事務事業評価(事前評価)シート【令和5年度】

主管課(担当名)	農林課(林務・自然保護担当)	事業区分	<input checked="" type="checkbox"/> 実施計画 <input type="checkbox"/> 重点プロジェクト
事務事業名	自然保護対策経費	事業番号	121

1 施策体系

施策体系との関連	施策区分	5-09	自然・歴史・食観光の振興
	施策目標	自然・歴史・食など多彩な魅力を活かした観光のまち	

2 事務事業の目的

目的	貴重な自然環境との共生を図るために、市民、企業、自然保護団体及び関係行政機関などと連携・協働による保護・保全活動を推進する。
成果	自然保護意識の高揚が図られ、自然資源の賢明な利用促進に繋がる。
実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直営(市が直接実施) <input type="checkbox"/> 補助(民間等に補助) <input type="checkbox"/> 委託(民間等に委託) <input type="checkbox"/> その他
事務区分	<input checked="" type="checkbox"/> 自治事務 <input type="checkbox"/> 法定受託事務

3 事務事業の概要

事務事業の概要	年度	概要						
	R2	①希少鳥類の保護増殖事業(生息地における繁殖条件の改善及び生息環境整備、生息地における監視等) ②明治自然環境保全区共同活動計画に基づく野鳥調査、自然観察会、植樹祭の開催など						
	R3							
	R4							
	R5							
	R6							
	R6							
(単位:千円)		R2	R3	R4	R5	R6	総事業費	
事業費と内訳	事業費				2,154	3,195	5,349	
	内訳	国庫支出金						
		道支出金				266	266	532
		地方債						
		ふるさと関連基金				1,621	2,000	3,621
		その他						
	一般財源				267	929	1,196	
人員(人工)				0.17	0.17	0.34		
職員費(人員×7,455千円)				1267	1267	2534		
総事業費				3,421	4,462	7,883		
維持管理	管理主体							
	運営方法							
	維持管理費	施設維持費						
		概算人件費						
		合計/年						

4 事務事業の現状と課題

活動指標	指標名	計画値 (R4)	目標値 (R2)	目標値 (R7)
	希少鳥類の保護増殖事業(衝突事故防止対策)への参加者数	16人	-	20人
	自然観察会等への参加者数	10人	-	40人
			-	
事務事業改善策 (継続事業のみ記入)				

5 事務事業の効果について

取組みに当たって期待される効果など	<p>①保護増殖計画に基づいた給仕、事故防止対策及び生息地における監視により、当市に生息する希少鳥類の自然状態での安定的な存続を図ることができる。</p> <p>②貴重な自然環境との共生を図るために、市民、企業、自然保護団体及び関係行政機関などと連携・協働による保護・保全活動を推進することにより、自然保護意識の紅葉が図られ、自然意識の賢明な利用促進に繋がること期待される。</p>
-------------------	---

6 評価の視点

ア. 市民ニーズ	<p>■かなりのニーズがある □ニーズはある □ニーズはあまりない</p> <p>近年、自然保護に対する市民の意識も高まっていることから、ニーズはある。</p>
イ. 市が実施する必要性	<p>■市が実施すべきである □市の実施について検討の余地あり □市以外で実施可能である</p> <p>各種活動は、行政だけではなく、市民や企業、自然保護団体等との連携・協働が不可欠であることから、行政が主体となって取り組む必要がある。</p>
ウ. 事業の緊急性	<p>□緊急性が高い ■緊急性はある □緊急性はない</p> <p>貴重な自然資源との共生を図るためには、各種事業を継続的に実施していくことで効果が発揮されるものであり、緊急性がある。</p>
エ. 手段の適切性	<p>■適切である □現状として妥当である □検討の可能性はある</p> <p>各種事業実施に当たっては、有識者からの意見や市民要望等を反映させており、適切である。</p>
オ. 事業の公平性	<p>■公平性は高い □概ね公平である □改善の余地はある</p> <p>市民や企業、自然保護団体等との連携・協働による事業実施であることから、適切である。</p>
カ. 事業の有効性	<p>■本事業の有効性が高い □本事業の有効性がある □既存事業と大きな差はない</p> <p>希少鳥類の生息数の増加や、自然保護事業を通じて、市民の自然保護意識への関心が高まっていることから、有効である。</p>

7 今後の事業の進め方

ア. 総合政策部で付された意見	<p>【計画どおり実施】</p> <p>速やかに事業推進を図り、市民、企業、自然保護団体及び関係行政機関などと連携・協働による保護・保全活動の推進に努められたい。</p>
イ. アを踏まえ、担当部局の方針	<p>■計画どおり着手が適当 □再検討し実施する □着手を延期する</p> <p>貴重な自然環境との共生を図るため、関係機関等との連携・協働による保護・保全活動に係る事業推進を速やかに図る。</p>

作成年月 令和5年7月